



YU-INFORMATION

2011 JULY No.102

山口大学広報誌

ようこそ！知の広場、山口大学へ

フリーアナウンサー

伊藤 愛さんインタビュー

2015年 創基200周年にむけて

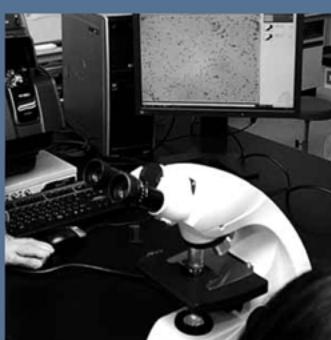
山口大学の歩み

さまざまな制度とサポートで充実した学生生活を応援！

山口大学の特徴的な取り組み

リアルな山口大学を知るチャンス！

オープンキャンパスの魅力を公開





YU-INFORMATION
2011 JULY No.102



「志」つなぎ 伝える 二百年

山口大学は、長州藩士・上田鳳陽によって1815年に創設された私塾山口講堂を起源とし、明治・大正期の学制を経て、1949年に、地域における高等教育および學問研究の中核たる新制大学として創設されました。来る2015年には、山口講堂創設から創立200周年を迎えます。

山口大学は、地域に根差した大学として、さらなる充実と飛躍を期し、次なる100年をより有意義なものにするための記念事業を計画しています。



ようこそ！知の広場、山口大学へ

高校を卒業し、大学生となってからの4年間は、

その後の人生を決めるとても重要な期間です。

大学生活をどう過ごし、何を身に付けるかによって

将来の可能性は大きく変わります。

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念に掲げ、

質の高い教育の提供を通して、

国際社会や地域社会に貢献できる人材の育成に力を入れています。

のために、共通教育や学生生活サポート、

学生はもちろん保護者にとっても気になる就職・キャリア支援

といった制度に加えて、構内施設の整備を行い、

学習環境のより一層の充実を目指しています。

YU-INFORMATION 7月号では、そうしたさまざまな取り組みを紹介し、

山口大学のリアルな魅力に迫ります。

CONTENTS

■卷頭インタビュー	01
たくさんの経験と出会いが自分を大きく成長させてくれました フリーアナウンサー 伊藤 愛さんインタビュー	
■特集 1	04
時代が求める総合大学として人材育成を通して地域に貢献 2015年 創基200周年にむけて～山口大学の歩み～	
■特集 2	06
さまざまな制度とサポートで充実した学生生活を応援! 山口大学の特徴的な取り組み	
■学生取材	10
リアルな山口大学を知るチャンス! オープンキャンパスの魅力を公開	
■連載企画	12
考える就職活動 [第2回] 学問を仕事にするということ	
■年間企画	13
NEWS&TOPICS こちら YU-PRSS	
YU INFORMATION	
編集発行／山口大学広報委員会	
西田眞夫（新学長・秘書企画担当）／木下武志（副学長補佐）／坪野英彦（人文学部）	
石井由理（教育学部）／成富敬（経済学部）／白石清（理学部）／坂井功（医学部）	
清水則一（工学部）／阿庭上弘行（農学部）／何映毅（大学教育機構）	
近久博志（医学公達捷・イノベーション推進機構）／小河原加久治（大学情報機構）	
宮守美和（エクステンションセンター長）／藤井大司郎（アドミッションセンター長）	
久保元伸（大学院技術経営研究科）／梅木哲也（総務部広報課）	
企画・編集・撮影／セントラル広告	
デザイン／ジエータップ	
印刷／大村印刷	



たくさんの経験と
出会いが自分を大きく
成長させてくれました

テレビやラジオでお馴染みの伊藤愛さん。

山口大学人文学部を卒業後、
持ち前の明るさとキャラクターを生かして、
フリーのアナウンサーとして活躍されています。

伊藤さんは小さいころからのあこがれを、

山大での学生生活を経て、
どのようにカタチにしていったのでしょうか。

その出発点や在学中の思い出、
そして現在のお仕事などについてお話を伺いました。



フリーANAウンサー 伊藤 愛さん

Ito Ai

山陽小野田市出身。平成16年、山口大学人文学部言語文化学科卒。フリーANAウンサー。tysテレビ山口「週末ちぐまや家族」やFM山口「FRIDAY Bang! Bang! Highway」など、テレビ・ラジオを中心に活躍中。

アナウンサーとして 山口の魅力を再発見。

小さいころから「テレビに出たい」という願望はありました(笑)。小学校の卒業文集にも「アナウンサーか小学校の先生になりたい」と書いていましたね。特別意識したことはありませんでしたが、常にどこかにその思いがあったのかもしれません。今の業界に入ったのは、あるイベントのイメージキャラクターを務めさせていただいたことがきっかけです。初めてのことばかりでドキドキすることばかりでしたが、とても貴重な経験をさせてもらいました。学校以外での出会いは、とても刺激的でしたね。

また、コミュニティFMのパーソナリティーも経験しました。先輩から発声・発

音の基礎を習ったり、新聞や本を初見で声に出して読むことで瞬発力を鍛える練習をしていました。とにかくすべての経験が新鮮でしたね。

現在はフリーANAウンサーとして、テレビやラジオのパーソナリティや、イベントの司会などで県内各地を飛び回っています。この仕事の魅力は、山口のさまざまな魅力を再認識・再発見できたり、多くの人々との出会いを通じて、人の温かさを実感できたりすることです。視聴者やリスナーの皆さんから寄せられる「面白かったよ!」「元気をもらったよ!」という声に、いつもパワーをもらっています。これからも出会いに感謝し、自分を磨くことを忘れず、成長し続けていきたいですね。

山大は多様な価値観に あふれた刺激的な環境。

山口大学では言語文化学科言語情報学コースに進みました。昔から国語や英語が好きだったので、進学するなら語学系と決めていました。山口大学を選んだのは、さまざまな知識や価値観に触ることで、自分の視野を広げられると思ったからです。あとは地元の大学に進学してほしいという、親の希望も大きかったです。都会の大学に進学していたら、個性がつぶされていたかも…と思うことがあります。たくさんの自然に囲まれたのんびりとした空気の中で、自分らしさを大切にしながら過ごした学生時代、山口大学は、私にとってとても理想的な学びの環境でした。

大学に入学してまず驚いたのは、勉強のシステムです。必須科目はあります
が、基本的に自分の好きな科目を選択して自由にカリキュラムを組むのが、高
校との一番の違い。有意義な大学生活を送るためにには、何よりも自ら学ぼうとす
る姿勢が大切だと思います。勉強漬けの高校時代とは違った、自由であることの樂しさ・大変さを学びましたね。また、文学や心理学など、専攻以外のことでも勉強する機会が多くありました。幅広く学ぶことで感性を刺激され、視野が大きく広がったように思います。

卒業論文にはとても苦労しましたね(笑)。私のテーマは「発話の聴き取りやすさ」。声のサンプルをとってアンケート調査を行ったり、機器を使って音声を分析したり…。聴き取りやすく話すにはどうしたらいいか、相手に自分の想いを効果的に伝えるにはどうしたらいいかを追究しました。これは、現在の仕事にもかなり生かされているように思います。

また、それぞれの個性が際立ったサークル活動も刺激的でしたね。歌うことが好きだったので、軽音楽サークルに入りボーカルを担当しました。ライブや合宿などの活動を通じて、学部・学科の枠をこえた友人や先輩や後輩といった縦のつながりが生まれ、充実した学生

生活を送ることができました。

出会いと経験は将来の可能性を広げるチャンス!

山大には、さまざまな研究分野で活躍する先生に、いつでも気軽に質問することができます。また、出身地も専攻も異なる、多種多様な価値観を持った学生同士の交流も活発です。このようにさまざまな人と交流ができる環境は、社会人に必要な主体性やコミュニケーション能力、協調性などを身に付けるチャンスです。学生の皆さんには、この恵まれた環境を、積極的に生かしてほしいですね。

何にでも挑戦できるのが学生の特権だと思います。社会人になると、時間の制約で、新しいことに挑戦することがだんだん難しくなります。勉強や資格取得ももちろん大切ですが、自由な時間がある今だからこそ、キャンパス内だけにとどまらずに、さまざまな経験をすることをお勧めします。そこから人脈が広がり、将来につながるということも決して珍しくありません。だから、自分の興味がないことや、将来に直接関係のないと思うことにも、アンテナを立てて挑戦してみることは大切です。そうすることで見えてくることも、たくさんあると思います。



■広報学生スタッフの感想

人文学部 人文社会学科 2年 溝口 明音



伊藤さんのお話は、「有意義な学生生活」とは何かを改めて考えさせてくれる内容でした。大学生活の中では、講義・サークル・アルバイトなどさまざまな経験と出会いがあります。伊藤さんは、そのすべてにアンテナを張り、その中から自分にとってプラスになるもの

を吸収したいと常に考えて行動しているという印象を受けました。ただ漠然と大学生活を過ごすのではなく、毎日「貪欲」に何かを得ようすることが、大学生活を、今よりもさらに有意義なものにし、将来展望を広げるのでないかと感じました。

特集1

2015年創基200周年にむけて～山口大学の歩み～

時代が求める総合大学として 人材育成を通して地域に貢献。

2015年に創基200周年を迎える山口大学。

その前身は1815(文化12)年、長州藩士 上田鳳陽(うえだ ほうよう)によって創設された私塾「山口講堂」にまでさかのぼります。

以来、地域の総合大学として時代を担う多くの逸材を輩出してきました。

前身である山口講堂から明治時代の山口中学に至るまでの
山口大学の歴史をご紹介します。



山口高等商業学校(明治・大正時代の正門)



山口高等商業学校(昭和初期の正門)



山口師範学校(1942年当時の正門)



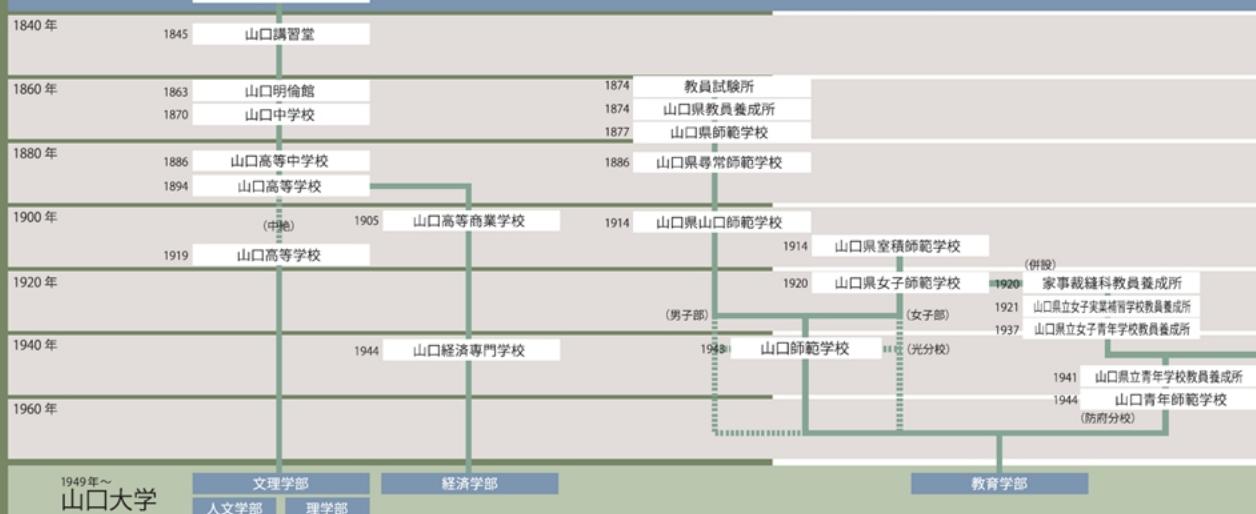
建学の祖、上田鳳陽

上田鳳陽は、1769(明和6)年、萩藩士 宮崎猪兵衛在政(みやざき いひょう えありまさ)の三男として現在の山口市大内に生まれ、幼少のころ上田平右衛門清房(うえだ へいえもんきよふさ)の養子となりました。幼いころから学問を好み鳳陽は、32歳のときに萩に遊学。藩校明倫館に入學し、儒学や国学を学びました。9年間にわたる明倫館での修学を終えて帰郷した鳳陽は、家塾を開き、山口に住む藩士の文学教導に尽力しました。

江戸時代後期に入ると、各藩では財政難に伴う藩政改革が断行され、優秀な人材を育成する目的で次々に藩校が創設され、文武の教育が行われました。萩藩も国家興隆の基本は教育にあるとして、全国に先駆け藩校明倫館を中心として、郷校、寺子屋、私塾などを設けました。

しかし、当時の山口(現在の山口市)は、武芸の稽古場はあっても、学問を指導する場はもちろん、書籍すら乏しいという状態がありました。このことを大いに憂いた鳳陽は、当時の明倫館の学頭 中村九郎兵衛を通じて、藩に対して

沿革図 創基から新制山口大学に至るまで



山口に学舎の設立を発案しました。

この申し出を賞賛した萩藩は、鳳陽を下級武士の身分から中級武士へと昇格し、学問に専念できるよう儒役という役職も与えました。さらに、資銀を提供し、藩有林から建築用材を採取することを許しました。そして、明倫館の学頭中村九郎兵衛や山口の豪商、周辺の豪農らの協力を得て、1815(文化12)年4月、元山口公設市場の辺りに、正面幅約10メートル、奥行き7.3メートル、三面に回縁のついた平屋造りの「山口講堂」が完成しました。

勉学に励む門弟の中に武芸の師も含まれていたこともあり、山口講堂は剣術・槍術・馬術・射術など、武芸の稽古場としても整備されていました。

文武の総合学舎として

設立当初から公的教育機関の性格を帯びていた山口講堂は、藩校明倫館拡張の機運に伴って、明倫館の支校的存在となっていました。そこで鳳陽は1845(弘化2)年、山口講堂を「山口講習堂」と改称。彼の死後は高弟が引き継ぎ、萩藩の文教政策に沿って改革の道を歩みます。

1858(安政5)年、藩は講習堂の文武修練の監視のため稽古係を派遣。明倫館からは学事の監督を行う督学を派遣し、諸事を統率させました。翌年には講習堂の稽古方諸経費を明倫館の直轄払いにすべき旨が藩から下されました。また、督学に山県半蔵(やまたはんぞう)が就任するなど、明倫館の影響はますます強くなっています。

名実ともに山口における文武の総合学舎として発展していった山口講習堂は1860(万延元)年、藩政府によって明倫館の直轄となりました。

時代とともに改革・発展

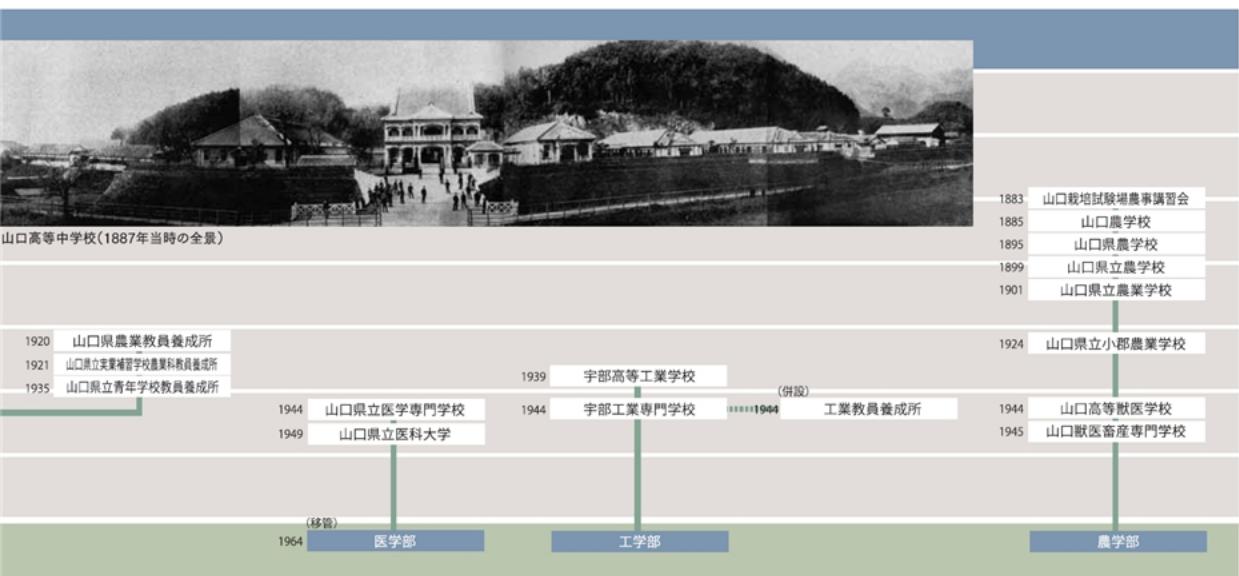
明倫館直轄後、人員も増え大いに賑わいを見せていた山口講習堂ですが、校舎が手狭になり、また老朽化も目立つようになっていたことから、1861(文久元)年、後の山口高等中学校敷地の中心部となる亀山東麓への移転改築することが決定しました。以来、1973(昭和48)年に現在の山口市平川地区に統合移転されるまでの112年間、山口大学の歴史はこの地で刻まれることとなりました。

1863(文久3)年、山口への藩庁移

転に伴い、山口講習堂は「山口明倫館」と改称され、兵学寮と文学寮に分けられました。第二次幕長戦争の予感が漂う中、大村益次郎を兵学寮の教授として迎え、第一線で活躍できる士官の養成を目指して、洋式兵学の教育が行われました。

明治に入ると新政府による教育改革が行われ、現在の文部科学省にあたる大学は「大学規則」「中・小学規則」を制定。小学→中学→大学という進学体系が初めて示されました。これを受けて藩内最高学府の山口明倫館は中学となり、「山口中学」が誕生しました。萩に明倫館が創設されてから152年目の出来事でした。

学科内容は藩校教育の延長で、儒学・国学・洋学からなる学科構成、兵学教育を重んじる学風は受け継がれました。藩庁は積極的に外国人教師を招き、洋学教育に力を注ぎ、洋学寮を新設しました。1871(明治4)年になると、教育内容は大きく変化し、軍事的色彩が無くなり、普通教育の場に転換。廃藩置県後は県の直轄として存続しました。鳳陽が設立した山口講堂から今日に至るまで、山口大学は由緒ある地域の基幹総合大学として発展し続けています。



さまざまな制度とサポートで 充実した学生生活を応援！

自然環境豊かな山口大学では、

学生の皆さんのが安心かつ充実したキャンパスライフを送れるよう

勉強から生活に至るまで、さまざまな制度やサポート体制を整えています。

特に、総合大学ならではの特徴を生かして共通教育科目に力を注ぎ、

将来に大きく関わるキャリア教育・就職支援の充実を図っています。

今回はそうした山口大学の特徴的な取り組みについてご紹介します。



特徴ある、山口大学の共通教育授業！

共通教育とは?それは山口大学の学生として学部を問わず身に付けるべき幅広い教養を学ぶ過程です。全学の教員が授業を担当し、複数の学部の学生と一緒に受講します。将来の就職活動に直結するキャリア教育、TOEICを導入した授業があるのも山口大学ならではです。

POINT 1

TOEIC準備

～目標ラインを目指して学習する～



山口大学では、平成14年度から共通教育にTOEICに準拠したカリキュラムを導入し、英語コミュニケーション能力の養成に取り組んでいます。TOEIC準備とは、英語のコミュニケーション能力を高めるために、TOEICテストを取り入れた、7週間のクオータ制授業のことです。入学後すぐに全員がこの授業を受け、まずTOEICの意義を知り、その学習法と英語学習習慣を身に付けます。授業は、TOEIC各パートの特徴と、受験に必要な知識・技術を確実に伝えるため、統一の教科書を使用し、すべてのクラスが同一の内容と進度を保って実施されます。7週間の授業が終了した後は、全員がTOEICテストを受験し、そのスコアに応じた習熟度別クラスを再編成します。それぞれの能力を最大限に伸ばすために、あらゆるレベルを想定したカリキュラムを用意し、習熟度に合わせた授業を展開しています。卒業時にはすべての学生が、TOEIC400点以上に到達することを目標(スコアの卒業要件は学部・学科により異なります)としています。

知の広場 -人と学問-

～基本理念に基づいた総合教養～



本学の基本理念である“発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場”が科目名となった授業です。前期は、入学したばかりの学生が、本学を深く理解し、本学の学生としての自覚を持ってもらうことに重点を置き、テーマごとに学長、副学長、学部長などが講師を担当します。本学や各学部の設立、発展の経緯、現状、また、学問分野の概要などの講義が行われます。後期は、外部の有識者を招いての講義となります。社会や人間についての問題意識を高め、目的を持った大学生活が送れるようになることを目標として展開されます。さまざまな経験や考え方を持った魅力的な講師陣から幅広い分野について学ぶことと、2年生以上も受講できるのが特徴です。非常に人気が高い科目となっており、初回の授業において、受講を希望する学生が殺到し講義室に入りきれないといったこともあります。また、山口大学ホームページ内の「インターネット知の広場」にて動画配信もされているので、より多くの人がこの講義を体験することができるようになっています。

キャリア教育科目

～卒業後の将来を見据えた学び～



本学には、入学してから就職・進学までの道のりを共に歩んでいくための多種多様な支援システムが用意されています。そのうちの1つがキャリア教育科目です。1年次に学ぶ「キャリアデザイン」は、「大学の次のステージ」についてしっかり考え、大学生活を有意義に過ごすための考え方を学ぶ授業で、各種活動支援や個別相談とも連携しています。3年次には「キャリアと就職」と「キャリア形成とコミュニケーション」の2つがあります。「キャリアと就職」では、働くことの基礎知識を得ることと、“自分のキャリアは自分で作る”という考え方を学びます。「キャリア形成とコミュニケーション」では、プレゼンテーションやグループワークを通じて基礎知識に引き続き、実践的コミュニケーション能力を高めます。こうした早期からのキャリア学習によって、人生をトータルに考えて設計し、自身のキャリアをデザインしていく力を養えるように指導しています。本学では、卒業後活躍できる人材を育てるべく、入学から卒業まで、さまざまな面で学生をしっかりとサポートしていきます。

自然豊かなキャンパスは、山口大学の魅力のひとつです。教育・研究活動の場として、また、学生、職員だけでなく、地域の方々にとっても、思慮し、憩い、癒される場となるよう、自然を生かした環境整備を進めています。開放的な空間で、キャンパスライフを楽しんでください。

POINT 2

正門周りの環境整備

吉田キャンパスでは、地域住民の方々が気軽にキャンパスへ足を運べるよう、正門から里山に続く道は自然歩道として整備され、オオガハス池、ビオトープ、桜など、季節の変化を感じることができます。また、里山の頂上には、地域の方々や学生、教職員の交流の場として「共育の丘」があります。



吉田キャンパス正門前



ショウブ池



共育の丘

学生寮の新築・改修

学生への経済支援、学習環境の整備の一環で、常盤キャンパスには女子寮が完成し、吉田キャンパスでは吉田寮（男子寮）が新しくなりました。新しい寮はワンルーム型で、学生にとって理想的な生活空間です。今後は、吉田キャンパスの榎野寮（女子寮）の改修も進めていきます。



吉田寮1号館（外観）



吉田寮1号館（エントランス）



常盤女子寮

校舎の改修工事

山口大学では、各施設の耐震工事を含む、さまざまな建物の改修工事を随時進めています。新しくなった校舎は、自然採光を取り入れた明るい空間。優しい光に包まれ、快適で過ごしやすいと学生からも大変好評です。学生たちは、安全できれいな建物で、日々の勉強に励んでいます。



教育学部棟



経済学部棟



共通教育棟

充実した学生生活サポート&就職・キャリア支援!

山口大学では、学生が安心かつ充実したキャンパスライフを送れるように、入学料・授業料の免除、特待生制度、奨学金といった学生生活サポート制度や、理想の進路を徹底的にバックアップするための将来を見据えた就職・キャリア支援に力を入れています。

POINT 3

■入学料・授業料

入学料・授業料の納付が困難と認められる場合は、免除制度を受けることができます。ただし、入学料の免除は学費負担者が入学前1年以内に死亡または、入学する者もしくは学費負担者が風水害等の災害を受けた場合等に限られます。また、入学料微収猶予制度も設けています。

区分	金額	納入期日
入学金	282,000 円	入学手続きの時
授業料	前期 267,900 円 後期 267,900 円	5月中 11月中

■特待生制度

在学中の学業成績が特に優れ、かつ人物優秀であると認められる学生に対し、前期・後期毎に選考のうえ、各期分の授業料を半額免除する制度があります。1年生は後期から実施され、努力次第で継続できる可能性もあります。なお、免除額等については、在学中に制度が変更となる可能性があります。

■奨学金

人物・学業成績ともに優れ、経済的な理由で修学が困難な学生に対する学費助成金として、各種奨学金制度の申請が可能です。右表は日本学生支援機構奨学金の種類・貸与月額です。

その他の奨学金

右表以外に、地方公共団体、民間団体などの奨学金があります。募集は4,5月がほとんどで、奨学団体からの通知により随時掲示しますので、学生支援課奨学金用の掲示板で確認してください。

●地方公共団体等奨学金

石川県育英資金、沖縄県国際交流・人材育成財团奨学金、岡山県育英会、川崎市奨学会、山口県ひとづくり財団ほか

●民間団体奨学金

あしなが育英会、公益信託井深大記念奨学基金、公益信託池田育英会トラスト、内海奨学会ほか

区分 種類	貸与月額		備考
	自宅通学	自宅外通学	
第一種	①30,000 円 ②45,000 円	①30,000 円 ②51,000 円	無利子
第二種	① 30,000 円 ② 50,000 円 ③ 80,000 円 ④ 100,000 円 ⑤ 120,000 円	① 30,000 円 ② 50,000 円 ③ 80,000 円 ④ 100,000 円 ⑤ 120,000 円	有利子 返済後、年 3% を上回とする利子付き(利率固定方式と利率見直し方式の選択制)

※詳しくは日本学生支援機構のホームページをご確認ください。<http://www.jasso.go.jp/>

■就職支援室

山口大学すべての学生を対象に、就職に関する情報提供や、業界・企業研究会の開催、個別就職相談などを行っています。そのほか、就職情報満載の学内メールマガジン「学生支援センター／就職NEWS」も毎週配信しています。

- 就職アドバイザーによるミニセミナー「シゴトの話」
- 個別の就職相談
- 山口県若者就職支援センターの就職相談
- データベース「日経テレコン21」
- 就職関連の書籍コーナー



■各種セミナー・説明会

業界動向や仕事をより深く理解できるように、経営者や人事担当者、本学の卒業生など、社会で活躍されている方々をキャンパスに招いた、さまざまな説明会や交流会を行っています。また、大学院生や留学生を対象とする就職支援も行っています。業界や仕事についてリアルに知ることができる絶好のチャンスです。自らのキャリア形成や就職活動に役立ててください。

- 学内業界・企業研究会
- 就職講演会就職説明会
- 就職活動交流会
- 人事院・国家機関説明会
- 学内OB・OG訪問
- 理系大学院セミナー
- ジョブスタディ
- 留学生就職支援フェスタ



■O-HARA山口大学就職支援施設

吉田キャンパス内にある大原学園グループとの連携による就職支援施設。大学に敷地内に民間の就職支援施設を設置するのは、国立大学では初の試みです。山口大学の学生を対象にした就職試験対策講座や資格取得講座を開講しており、公務員試験や、高度な資格試験にチャレンジすることができます。都市部で行われる授業をパソコンで受講できるVOD(ビデオ・オン・デマンド)室を利用すれば、無理なく自分でスケジュールを組み受講することができます。(開講講座:公認会計士、税理士、公務員、行政書士、宅建主任者、簿記3・2・1級など)



リアルな山口大学を知るチャンス！ オープンキャンパスの魅力を公開。

大学の雰囲気を味わい、先生や先輩から直接話を聞いて、その大学の素顔を知ることができるオープンキャンパス。

山大のオープンキャンパスは、先輩との懇談会や学生スタッフ「CAMゼミ」によるお楽しみ企画など、

山大ならではの内容が盛りだくさん！

学部学科紹介、研究室訪問、ミニ講義、実験実習体験、サークル紹介など、見どころも満載です。

情報を得るだけでなく、出会いや体感を通して、自分の視野を広げるチャンス！

積極的に参加して、山大生と一緒にオープンキャンパスを楽しもう！

発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場



山口大学 オープンキャンパス

Stand up! ~山大からのスタート~

8/5(金) 小串キャンパス

医学部 宇部市南小串1-1-1 [9:30受付開始 10:00～16:30]

8/6(土) 吉田キャンパス

人文学部／教育学部／経済学部／理学部／農学部
山口市吉田1677-1 [9:00受付開始 10:00～16:00]

8/7(日) 常盤キャンパス

工学部 宇部市常盤台2-16-1 [9:00受付開始 10:00～16:00]

入試や学生生活に関する個人相談

実験・実習、体験、ミニ講義

学長のかき氷屋さん

学部の概要説明

研究室訪問

学生による企画

中四国・九州地区国立大学進学情報の提供

山大生と一緒にオープンキャンパスを楽しもう

山口大学にはオープンキャンパスの企画・運営に携わる「CAMゼミ」というサークルがあります。高校生の皆さんに山大のことを知り、楽しんでもらいたいという思いから、さまざまな催しを行っています。今回は、広報学生スタッフが、山大のオープンキャンパスを企画・運営する「CAMゼミ」の学生に取材！その見どころや魅力を聞いてきました。



[写真右]

CAMゼミ実行委員長／泉 彩香さん

理学部生物・化学科2年

[写真左]

学生広報スタッフ／長岡奈緒子さん

人文学部人文社会学科2年



■CAMゼミとは？

「CAMゼミ」は今から6年前、学生たちによって自主的に設立されました。このネーミングは、キャンパスの「cam」と、英語で「できる」という意味の「can」をかけたもの。大学は夢を実現するための第一歩という思いを込めて命名しました。現在の人数は1年生9人、2年生11人、3年生3人、4年生8人の合計31人。毎年3～4月ごろから準備を始めています。昨年は、地域の依頼を受けて、白狐祭りなどのお祭りやイベントにも参加しました。

■今回の見どころは？

一番の見どころは、夏のデート服をテーマに競うファッションショーです。どの学生の私服スタイルが良かったのかを、高校生に投票してもらいます。等身大の山大生を知ってもらうための企画なので、おしゃれな人も、そうでない人も参加します（笑）。山大生が大学生活などについて講義を行う「授業大学」や、点数を競う「打ち水選手権」もお勧めです。毎年恒例のモザイクアートは、昨年よりもスケールアップする予定。とにかく見ど

ろがたくさんです！「山大ってどんなところ？」「大学生活ってどんな感じ？」など、先生や職員には聞きづらいことも、どんどん質問してもらいたいと思っています。

■学部企画との違いは？

一番の特徴は、学生目線で学生ならではの企画を立てられるところです。企画のベースは毎年変わりませんが、今年は参加型の企画を多めにしています。当日はボランティアの学生も参加します。「オープンキャンパスを学生が企画できるのは山大のみ！」を誇り文句に募集をかけていますが、実際に参加した人もとても楽しんでくれて、一度参加した人の多くがリピーターとなっています。このように高校生が楽しむだけでなく、スタッフ自身も楽しんでいるのが特徴です。

■企画・運営の難しさ・面白さは？

勉強の合間を縫って準備を行うので、やりたいこととできることを一致させるのが難しいですね。また、毎年苦労しているのが当日の高校生の誘導

です。何千人の高校生を誘導するのは大変。メンバー同士で意見の対立もあり、まとめるのは一苦労ですが、ぶつかりあった方が良い意見が出てくると考えています。オープンキャンパスの企画・運営は骨が折れます。前日の準備は文化祭のよう。ワクワクするし、やり終えたときの達成感は格別です。何より、高校生の皆さんの笑顔を見られることが喜びですね。

■高校生に一言メッセージ

高校生のみなさんは、山口＝田舎と思われるかもしれません。しかし、田舎＝退屈ではありません。むしろ、じっくりと落ち着いて学生生活が送れるので、自分の本当にやりたいことに集中できる、とても恵まれた環境だと思います。山大は学生の自主的なチャレンジを積極的に応援してくれる大学です。その代表的なものが、学生自らが企画し、盛り上げるこのオープンキャンパスです。ぜひオープンキャンパスで、リアルな山大を感じてみてください！そして、この機会にCAMゼミにも興味をもってもらえるとうれしいです。

楽しいだけじゃない！



工学部／超電導実験「人が浮く」体験



医学部／検査技術科学専攻 探血の体験



教育学部／美術教育選修の作品展示および紹介



人文学部／学部紹介の様子



農学部／動物医療センター見学の様子



理学部／イタオ火山灰層剥ぎ取り標本の説明の様子



経済学部／何でも相談コーナー

しっかり学べる
学部企画

2011年度オープンキャンパス 参加者の感想

模擬講義・研究室訪問を受け、授業のだけでなく学生生活についても知れた。（人文学部）

コース説明を受け、それぞれの個性でコースを選べることに魅力を感じました。（教育学部）

ミニ講義が分かりやすく、日本の経済についてより詳しく学びたいと思いました。（経済学部）

研究室で研究を見学し、実際に実験をすることで入学後のイメージがわきました。（理学部）

施設見学やカリキュラムの説明を受け、医学部の素晴らしさを知ることができました。（医学部）

実験やゲームを通して研究の面白さと、大学のレベルの高さを知ることができました。（工学部）

動物医療センターで実際の医療現場を見学し、興味とともに進学意欲がわきました。（農学部）

学問を仕事にするということ

いま勉強していることって仕事に役立つかな、
将来は日本を支える「ものづくり」に携わりたい、
理系志望だけど、研究の仕事って毎日なにするの…。
卒業後も仕事として学問し続ける研究職。
「考える就職活動」第2回目は、
山口大学を卒業後、日本唯一にして山口県が世界に誇る
石油ワックス専業メーカーに研究員として就職。
ご結婚されても今なお第一線でご活躍される
玉野宣子さんにお話を伺いました。

Q1.現在どのような研究をしているのか教えてください。

A.キャンドル、タイヤなどのゴム製品のひび割れ防止、段ボールや包装紙の耐水コーティング、プリンターのトナー、口紅やアイシャドーといった化粧品、軟膏や薬用リップクリームといった医療品など、身の回りのさまざまな製品に使われているワックス(ろう)の研究をしています。日々、製品の改良を行ったり、新たな性質を持ったワックスの開発をしたりしています。

Q2.なぜ研究職に就こうと思われたのですか?

A.高校の頃から化学が得意だったので、高校の化学の先生になりたいと思い、山口大学の理学部化学科に入学しました。4年生では分析化学研究室に入りました。当時、理学部化学科の進路としては大学院進学、研究所勤務、教師などが一般的だったのですが、卒論での実験作業が楽しかったこともあり、最終的には地元企業での研究職を選びました。

Q3.いざ就職されて、どのような苦労がありましたか?

A.実験や考えの組み立て方は、大学で学んだことが応用できたのですが、ワックスの専門知識については、一から覚えてはなりませんでした。当時を振り返ってみると、先輩方は、この会社初めての女性研究員だった私を気遣いながら、丁寧に指導して下さっていたんだと思います。



【OB・OGアンケート調査】県内ではたらく山大出身者に聞く仕事と暮らしに関する2つの質問

Q1.いまやりがいを感じていることを教えてください。

- 育児と仕事です。育休が明けて仕事に復帰して、改めてやりがいを感じます。そう考えられるのも育児経験のおかげだと思います。
- 仕事です。成果が上がったとき、上司に認めてもらえたとき、新しいことを任されたとき、誰かの力になれている、必要とされていると実感できることで生きがいを感じます。
- 就職後に始めたテーブルコーディネートとワックス。仕事とは関係のないところで趣味として始めましたが、たまに仕事の関係者とつながることもあります。
- いかにして人脈を広げるか、おもしろい人と知り合うか。



玉野 宣子 Tamano Nobuko

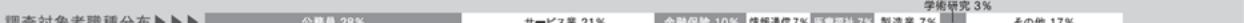
山口県周南市出身。山口大学理学部化学科を卒業。在学中は人形劇サークルに所属。1993年に日本精蠟株式会社に入社し、現在19年目。開発研究センター勤務。

Q4.仕事でやりがいを感じるのはどういう時ですか?

A.なんといっても、商品開発に成功した時です。私たちの仕事はお客様のご要望にお応えすべく、「今までなかったものをつくる」として「不可能を可能にする」ことです。さまざまな実験を繰り返し、開発を行っても、製品になるのはその半分以下。だからこそ、改良に改良を重ね、何十ものチェック項目をすべてクリアし、納得のいく製品に仕上がった時は、何ものにも代え難い満足感を感じますね。

Q5.最後に、学生へメッセージをお願いします。

A.研究というのは、企業にとって縁の下の力持ち的な存在です。今頑張っていることが、10年経ってようやく日の目を見るなんてこともあります。新人の頃、先輩方によく言われていたことなんですが、何よりも大切なことは、実験を好きになること、そして失敗にくじけず諦めずに続けることです。私たちの開発研究センターは、大手研究所のように開発の一過程だけを行うのではなく、お客様の注文を聞くところから始まり、研究センターでの開発作業、さらには工場への製造指示までトータルで担当します。現場と深く結び付き、多くの人と関わりながら一緒になってものを作るのは、この仕事一番の醍醐味です。「中小企業」という選択肢を考えてみるのも面白いと思います。



Q2.就職活動中の大学生に向けて一言。

- 職種、就職先、就職場所、給料など、条件の優先順位をしっかりと決めることが大事です。
- 社会人になると平日はほぼ会社に拘束されます。何か資格を取るのなら今のうちに!
- 自分がやりたいと思った仕事を選んでください。好きな仕事なら頑張れます。
- 公務員志望の方には、まず民間企業を経験してから公務員試験を受けた方が人間として成長できると感じます。焦らず自分の人生設計を見定めながら、就職先を決めてください。
- フリーターになっても良いことないですよ。生活基盤が安定してるって凄く重要です。
- 山口大の皆さん、ぜひ山口県で就職して、一緒に山口県を盛上げていきましょう。

"Yamaguchi University Public Relations Student Staff" 略してYU-PRSS(ユープラス)。
 「山大生のあなた(YOU)にも、そうではないあなた(YOU)にも"プラス"になる情報を届けたい」との
 想いを込めて名付けられました。現在13人のメンバーにて、山口大学の広報活動を行っています。

NEWS&TOPICS

私たち学生スタッフが、山大の最新の話題やニュースをお届けします！

01

大阪大学総長
鷺田清一氏講演会開催

本学では、国内外のさまざまなジャンルの研究者をお招きする「知の広場」学術講演会を開催しています。5月24日(火)は、大阪大学総長の鷺田清一氏をお迎えし、「知識と知恵—いまほんどうに必要なものは?」と題した講演会を行いました。「問題に直面した時にはすぐに白黒をつけず、わからない中で対応していくことが重要である」とのお話が印象的でした。次回(11月22日)は、ノーベル物理学賞受賞の益川敏英先生をお迎えする予定です。教職員や学生はもちろん、地域の方々も気軽にご参加ください。



02

震災・原発事故への
知識を高める講演会開催

理学部のH23年度1回講演会「震災・原発事故を正しく理解するために」を5月24日(火)に開催しました。金折教授による講演「大震災とブレーント運動：西日本大震災は起きる？」では、「地震をむやみに恐れるのではなく、正しい知識と理解を身に付けることが重要である」ということ、松永教授の講演では「私たちは日常的に放射線を浴びており、必要以上に恐れることはない。定量的に判断することが大切である」ということを学びました。参加者から多くの質問が寄せられるなど、関心の高さが伺えました。



03

「やまぐちイノベーション
創出推進拠点」開所式

5月31日(火)に、山口県産業技術センターとの包括的連携・協力協定書調印式、および「山口イノベーション創出推進拠点」開所式・除幕式を行いました。山口県産業技術センターと本学は、平成11年に協力協定を結んで以来、さまざまな活動を共に行ってきました。今回の協定はそれぞれの法人化を機に、改めて締結したものです。山口イノベーション創出推進拠点では、产学研による共同研究を推進、特に、山口県の特色産業である「省エネ・環境・マテリアル技術分野」に注力し、地域中小企業の活性化を進めています。



04

廣中平祐元学長
時間学研究所名誉所長任命

6月28日(火)の国立大学法人山口大学時間学研究所名誉所長任命式において、本研究所の設立に尽力された元山口大学学長の廣中平祐先生の功績を讃え、丸本学長から名誉所長の称号が授与されました。廣中先生は、学長在任時に、「時間」に関する研究者間の交流を図り、新たな学際領域を創造されました。世界的にも例を見ないこの研究所は、今年度の文部科学大臣賞を受賞するなど、高く評価されています。新たな研究体制の充実・強化を図り、時間に関する世界的研究拠点となることを目指します。



【YU-PRSS(ユープラス)とは?】「キャンパスライフ」、「ワイルドフォーメーション」の制作に携わる山口大学広報学生スタッフです

YU-PRSSメンバー

林田 久恵／原内 由佳／桐原 純太／国本 亮／久保田 法彦／入江 貴博／佐々木 裕美／黒江 那津子／長岡 奈緒子／前田 梨乃／吉岡 優一／河島 あかね／溝口 明音

■追加メンバー募集中!

主な仕事は、山口大学のホームページ内にて毎週更新されている「キャンパスライフ」ページの作成と山口大学広報誌「ワイルドフォーメーション」の製作補助です。取材・撮影・記事執筆といった、企画・編集業務に興味のある方、一緒に活動してみませんか?

詳しくは下記アドレスまでメールしてください。

E-MAIL:campus@yamaguchi-u.ac.jp キャンパスライフURL:http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~campus/campus_life%20_web/

■感想、取材依頼などお気軽にメールしてください!

今号についての感想や、今後こういった特集はどうだろうといったアイデア、こんな人を取材して欲しいといったご要望も受け付けております。また、「私たちを取材して欲しい」といったサークルやグループも大歓迎です!たくさんのメールをお待ちしています。

「志」つなぎ 伝える
二百年



—創基200周年—
山口大学

YU-INFORMATION
2011 JULY No.102

山口大学広報誌